



秋田大学教育文化学部附属小学校 校 報

はとの子だより

No.16 令和8年10月16日(金)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

秋の深まりとともに

朝晩のひんやりとした風とともに秋が深まり、校内にはたくさんの「実り」を感じる季節となりました。今回は、子どもたちの生き生きとした姿から、3つのエピソードを紹介します。

① 黄金色の稲穂に弾ける笑顔 ～2年生の稲刈り体験(10月7日)～

学校内の田んぼでは、2年生が春から大切に育ててきた稲が立派に実り全員で稲刈りを行いました。鎌の手つきに少し緊張しながらも、一株一株丁寧に刈り取ると、あちこちから「とれた!」「ずっしり重い!」と歓声が上がりました。自分たちの手で収穫できた喜びを全身で表現する子どもたちの笑顔は、黄金色の稲穂と同じくらい輝いていました。自然の恵みと食への感謝を実感する、かけがえのない体験となりました。



② 自分たちの手でつくる学校 ～児童総会開催、各委員会の後期活動スタート(10月9日)～

児童総会が開かれ、後期の委員会活動がスタートしました。

総会では、よりよい学校生活を目指し、各委員会の具体的な計画に対して活発な質疑応答が行われました。「新たに企画するわくわく班活動はどのようなことをするのですか」などと、自分の考えを言葉にして堂々と質問する姿が見られました。リーダーシップを発揮する高学年と、それを支え真剣に耳を傾ける子どもの姿に、「自分たちの手でよりよい附属小学校をつくっていこう」という意気込みを感じました。



③ 校内に響き渡るハーモニー ～はとの子学習発表会(10月31日)に向けて～

2週間後に迫った学習発表会に向け、各学年での練習が本格化しています。聴く人の心を動かす歌声が、心地よい秋風とともに校内に響き渡っています。仲間と声を合わせ、心一つに懸命に取り組む姿はとても微笑ましく、発表会当日の姿が今から待ち遠しくなります。

秋は子どもたちがこれまでに蓄えてきた力を存分に発揮し、大きな実りを結ぶ季節です。子ども一人一人が達成感を感じられるよう、教職員一同温かく見守り指導してまいります。保護者の皆様も、ぜひ楽しみにお越しください。

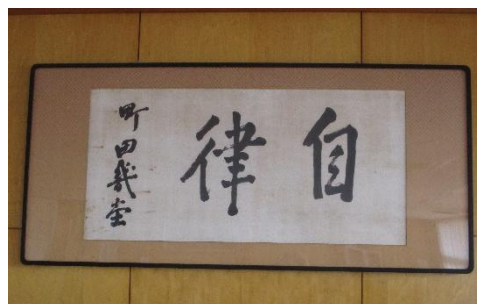
「自律」——自らを律する心が豊かな学校生活と成長の土台に

本校では、学校教育目標として「自律」を掲げています。

子どもの様子を見てみると、日々の学習や生活の中で、一人一人が自分の課題に向き合い努力しようとする姿が見られます。一方で、友だち同士のちょっとした言葉の行き違いから生じるトラブルや、身の回りの整理整頓（机の中やロッカーの片付けなど）が後回しになってしまう場面にも出会います。

このような姿を見るにつけ、本校が目指す「自律」の意味を子どもと一緒に考える大切さを感じます。

では、「自立」と「自律」はどのように違うのでしょうか。



本校会議室に掲額

・「自立」

大人や周囲の手を借りずに、自分の力で身の回りのことや行動ができる状態を指します。例えば、「一人で着替えができる」「一人で宿題に取り組むことができる」といった、外側に見える動作や生活力のことです。

・「自律」

自分の心や感情、行動を、自分の内側にある「価値基準やルール」に従って、コントロールすることを指します。

「自律」の力は、生まれつき備わっているものではなく、失敗や葛藤を繰り返しながら、少しずつ身に付いていくものです。例えば、自分がイライラしたときにどのように対処するか、自分の部屋やロッカーが散らかっているときにどのように行動したらよいのか、子どもは日々、自らに問い、自分の心と戦っています。

自分の思い通りにならないときやイライラしたときでも、自分の感情をぐっと抑え、「相手はどう感じているだろうか」「どんな言葉を使えばお互いに嫌な思いをしないか」などと考えを巡らせ、ぐっと一言踏みとどまることができる——これこそが「自律」の姿です。

学校では、単に「喧嘩をやめなさい」と「指示して従わせる（他律）」のではなく、「なぜそのようにする必要があるのか」「どうすればお互いに心地よく過ごせるか」を子ども自身に考えさせ、納得して行動に移せるよう指導を続けていきます。

子どもが、自分も他人も大切にしながら豊かな人間関係を築いていくことができるよう、家庭と学校が手を携えて育ててまいりましょう。

賞状伝達 ～入賞おめでとう～

5年C組の小野寺綾士さんが、「全国七夕競書大会」において「観峰賞」を受賞しました。先日、林正彦校長先生から賞状を伝達していただきました。おめでとうございます。

